THE WOMAN'S WEEKLY

第貳卷　第十四號

毎週金曜日發行

婦人週報

（大正四年十一月四日第三種郵便物認可）
（大正五年三月廿一日發行）

本號目次

子の遊學を見送る父の言葉……小橋三四子
一人一語　巖谷勇子
男學生の遊學と品行問題
▽我が子を遊學さすとしたら……安部磯雄
▽青年の修養……廣岡淺子
▽獨立自存の精神……鎌田榮吉
▽刺戟に馴らす爲め……棚橋一郎
靜かに歡へる……安中花子
名士と其母（四）山室軍平氏
池田蕉園女史の美點
英國への一人旅（三）……白菊女
寢ると熱く起きると寒い……濱田斬雲
田舍の臺所……くれは子
八百屋物の卸値と小賣
白髪にならぬ法……遠藤はつ子
今週の惣菜……櫻井親子
世界史お伽譚「ピオニヤの娘」
海の博覽會……一記者
子供の智慧
小說「何處へゆく」……松本寶舟
時事……個人消息……編輯室より

定價一部四錢九厘

婦人週報社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

◎最新流行 御傘履物
春のお花見にお散歩に輕快な
キルク草履をお召し遊ばせ
神田小川町一 龜屋商店
電話本局三一九四番
◎良品廉賣は龜屋の特色

日本少年寮々生募集
青年部 數名
少年部 數名
幼年部 數名
右募集ス
規則書御入用ノ方ニハ御申越次第御送附申上候
東京市小石川區雜司ケ谷町百十五番地
日本少年寮

新女界
第八巻第四號 四月號 一部十二錢・二部二十一錢・一年一圓四十錢・半年七十錢

□新學年の感想 安井哲子
□キリストの福音 海老名彈正
□羅馬尼亞王母陛下 吉野博士
□兒童の養護 三田谷啓
□現代社會に對する我等の不滿 成瀨仁藏 高島平三郎 安部磯雄 宮田たか 高田畊安 内ヶ崎作三郎 山室軍平 其他名家
□現時生活の混亂狀態（三） 海老名みや子
□蜜柑賣（小說） 廣田花崖
□愛の蘇生（サイラス、マーナー） 高橋茂
□櫻貝 有田四郎

東京小石川林町四三 新人社 振替東京一四〇〇五

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子の遊學を
見送る父の言葉

□

英國の學生氣質を寫した小說として名高い「トム、ブラウンの學校時代」を讀んだ者は、恐らく初めて遊學の途に上る我が子を見送りに行つた父が、村外れで別れに臨んで、會話する其の一節の名文を見逃しはなさりますまい。父はトムに大したむづかしい事は云はない、「學校に行つたら定めし種々の誘惑に逢ひ、善くない話を聞くだらう。が決して恐れてはいけない。いつも正直な、大膽な、また親切な心を持つて、そして決してお前の母さんや姉さんがお望みにならぬやうな事に耳傾けたり、云つたりしてはなりません。さうすれば誰れに耻づる事もなく大威張りで家に歸つて來られませうし、私達も喜んでお前を迎へる事が出來ませう」

□

かう語つた父はもう多くは云はない「お金は大丈夫かえ」「鍵はしつかり持ちましたか」と聞いて、年若い息子を一人旅に立たせてやる、その心中には期待と共に無量の憂慮が潜んで居るに違ひありません。然し父に別れたトムの最初の祈りは「どんな事に逢はうとも、愛する家族に耻ぢと悲しみを與へぬやうに」と云ふ事でありました。「英國に羨ましいものは二つある、家庭と紳士といふ言葉である」と、人をして云はしむる其の國の家庭のさまを忍ばしむるに充分な餞別の辭を、トムの父は申しました。

□

我が子を初めてその膝下から遠く離さうとする親は「羊を狼の群れに入るゝ」やうな冒險を覺ゆるに違ひありませぬ。殊に昨今の如く學生の品行の紊亂して底止する所を知らぬ社會に在つては、猶更ら親の心配は察するに餘りあります。そして親は大金をも惜しまずに、我が子によい境遇を與へてやりたいと、種々の思案を凝らして、其の子の成業を祈つて居ります。本號は特にこれ等の親の參考に供したいと、學生の監督に深い考へを持たるゝ諸名家の意見を徵しました。

□

然し一つ溯つて考へれば、遊學の途に在る者の境遇を案ずるのは、既に遅くあります。其の子の育つた家風が、何よりも強くその血に骨に浸み渡つて、親の膝下を離れた後も、絕えずその生活を支配するものである事は、經驗ある者の誰れしも感ずる處であります。トムの父が申したやうに「母さんや姉さんのお望みにならぬやうな事に耳を貸したり、語つたりしてはならない」と云ふ事が出來る程、家庭が高潔であつたら、必ずその子の趣味は高尚で、從つて自然に惡風を避け、良習を喜んで作つて行くに違ひありませぬ。

□

我が國の現狀では中流以下の家庭にあつては、男は家族を養ふ爲めに汲々として働らき、女は育兒や臺所の事に忙殺されて、一家に生活以外、團欒の樂しみも向上の精神も乏しくあります。中流以上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に至つては、男子の品行問題の爲め、家族ハ精神生活は實に荒み切つて居るものが多うございます。そして眞實に親の權威を持てる家庭が幾軒あるだらうかと思はせる程であります。社會も亦數年前一時流行をした穿き違へた自然主義の影響で、大に靑年の思想を毒して居るものがあります。かういふ時代に當つて、靑年の品行問題の起るのは、當然の事と申さねばなりません。

口

然しかやうな狀態は、人々に「ざうかしなくてはならぬ」と云ふ覺醒の氣を起させるに違ひありません。この時に當つて良藥を投ずれば、弊風は一掃されて、却つて新鮮高潔な風俗が生れて來るに違ひありません。ネロの羅馬は亡びて灰となりましたが、其處から美はしい精神的の王國が建設されました。私共も今日の時勢に當つて、心を潜めて考へて見れば必ず家庭、社會に多くの缺陷を見出すでありませう。而してその療法は二三ではなく、只一つであります。卽ち物質的の生活の泉源として、精神的生活を認める事これであります。（三四子）

時事週評

▲袁世凱の苦境　革命軍の旗上げが袁氏をこれほど苦境に陷入れやうとは、一寸豫想外でした。袁氏は折角着手した帝制を取消したし、又大總統の辭職を仄かしたりしてゐます。勿論これは袁氏が人心收攬の奸手段かも知れませんが、苟くも一大帝國の元首たるものが、さういふ奸手段を弄せねばならぬのは實に憐れな狀態といはねばなりません。袁氏一代はどうにかして大總統の地位を保つだらうと想はれましたに、これではその沒落も二三年を待たぬかも知れません。至誠なき政治家の最後は憐れなものです。彼は決して大人物と申すことは出來ません。

▲戰費一日一億圓　聯合軍と獨軍の敵味方の戰費を合はせて一日一億萬圓とは嘘のやうな話です。過去二十ヶ月の戰爭のために七百億圓の戰費を使用し、人員の損失は全體で最早一千萬人ださうです。一千萬人の死傷者と七百億圓を費つて、結局得る處はなんでせう。勿論この戰爭のために世界の歷史は一新紀元を劃するに至るでせう。けれどもそれは一千萬人の生命を奪つた結果としてはあまりに小さい結果です。一新紀元など劃さずとも世界歷史は平凡な路を辿つて差支へないのです。戰爭から得る結果に依つて戰爭贊成を唱へるのは愚かな事です。一個人の不幸災難でも、勿論其人になにか敎訓を與へますが、其の敎訓よりも災難のない方がよいに相違ありません。

▲女學校の卒業生　此頃は各女學校には卒業式の擧行を見ます。新らしい希望を抱いて世間に出る妙齡の女子はどれほど嬉しいでせう。けれども世間は決して樂園ではありません。單純な女の世界から、複雜な男の世界へ渡航する女學校卒業生は餘程用心する必要があります。

二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（一人一評）

巖谷勇子

「一」

この人が若し醫師であつたならば、杏林第一の成功者たるに相違ない——とは小波山人巖谷季雄君に對する好事者の評である。が、こゝに杏林ならなくも、お伽文學の鼻祖として、既に小波子は其の名を不朽に垂れるものであり、且つ我が文學史に異彩を加へてをると共に、その勞に對しては、氏に酬はるべきものがなければならぬのである。

かく小波子がお伽文學の權威として、不斷に努力し、既に盛名ある爲に、唯だ一個の文學者として社會の名數者は待つらしいが、こゝに巖谷君の滿足如何は暫く不問に附して、この人を唯だお伽文學の元勳とのみ見るのは、決して妥當でない。然らば何と見る？ 吾等は其の態度應接、用意に於いて——巖谷君は、確かに明治時代の生んだ大なる才人と云ふのが最も小波子を知るものであると考へたいのである。

「二」

その態度、應接、用意に於いて才人たる小波子の室として、こゝに十有餘年七人の令愛達の鞠育に餘念の無い勇子夫人のあることを知るものは、或は非常に多くないであらう。

由來、上流社會は暫く云はず——社交界の名士と仰がれる人々達は、決して單獨でなく、必ず『……氏及び同夫人』を以つて呼ばれ、且つ夫妻共に在るの常態である。而して此の愉快を取る爲に、富豪の愛孃達は、巨萬の貢白を携へて貴しい名門に輿入するものもあると云ふ。併し勇子夫人は、この社交上の愉快を解しながらも、遂に其の家庭から歩一步も出でやうとせぬ。こゝに『巖谷小波氏同勇子夫人』と記されることを自ら求めないのである。

「三」

かく其の家庭から歩一步も出でやうとせぬ勇子夫人は、世に例の少くない名士に連添ふ分らぬ女かと云へば、決して左樣でなく、あの瀟洒たる小波子の趣味は軈て勇子夫人の趣味であり、又其の嗜好も夫君に劣るものでなく、殊に其の健實なる基督教徒としての信念は、洵に畏敬すべきものであり、更に小波門下の人々達に對する溫情は、恰も子供王國の王樣たる小波子を具體化したものであると云ふが甚だ適切の言葉であるやうに思はれるのである。

歸る雁花見ながらに忙しき

とは小波子が十數年前に京阪地方を旅行をして、その友に寄せた句である。が、この句を讀んだ時の小波子は未だ獨身者であり、その令姉から縁談を勸められて應に郷里の水口に行かれやうとする時でもあつた。然り、而して其の頃の水口には——花恥かしい令孃勇子が父亡く、唯一人の慈母の許に小波子の妻たるべき運命を知らずに起臥してをつた。が、こゝに才人と佳人とは新しいホームを形つて、春風秋雨十有餘年、つゆ程の風波もなく不斷に美しい氣分に包まれてをるのである。（冬湖生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男學生の遊學と品行問題

疎かにせられたる其の監督
最初の境遇を撰ぶ事が大切

我が子を遊學さするとしたら

早稲田大學教授　安部磯雄

△放任に過ぐ

昨今地方から盛んに學生が上京する期節であるが、女子の學生と違つて、男學生に就ては、親は餘程放任の態度を取るのが普通になつて居る。そして兩三年學資を貢いだ曉に、親の期待はがらりと外れて、案外な不良の徒に陷つて居るのを見て、初めて騷ぎ出す者も少くない。遊學の初めに當つて、親は我が子の前途を慮つて、少しの注意を加へたら、この嘆きを見ずに濟むことが出來やうと思ふ。

△下宿屋の現狀

もし私が田舍に居つて、息子を東京に遊學せしむるとしたら、斷じて下宿屋には置くまいと思ふ。過日も或る眞面目な學生が來ての話に、今日下宿屋に起臥して居る學生の多くは、土曜日には申合せたやうに家を明けて、いかゞはしい處に遊びに行き、日曜は一日ごろ〳〵して居る。甚だしきに至つては、淫りがはしい女を、下宿屋に連れ込んで來ては、二三日泊らして置く、十四五人の學生が二人位そんな眞似をすると、後との半數位の人は私かに憤慨するが、他は却つてこれを羨ましげに見る位で、一般に學生の氣慨が衰へて居る事は、思ひ半ばに過ぐるものがあるといふことである。

△我が子を托するには

これ迄でなくとも、下宿生活はとかく自墮落に流れ易い、下宿屋は營業上窮窟にしては人望が無くなつて損であるから、客の氣に入るやうに仕向けて居る。こんな處にはとても我が子を置く氣にはなれない。一番よいのは良家庭を探し當てゝ、托する事である。親戚ならなほよろしいが、さうでなければ敎師の家か、他人の家庭でも監督の行屆く家を見出したいと思ふ。然し東部に住ふ中流の家庭や敎師の家庭では、他人を入れるやうな空室がある程、潤澤な生活をして居る者は尠いから、これは餘程困難な事である。

△割合に有効な監督法

もしそれが出來なければ、學校の寄宿舍か、各藩主の建てた寄宿舍、或は宣敎師等の監督して居る寄宿舍に入れたいと思ふ。どんな寄宿舍でも、下宿屋よりはましである。何れにしても親は一度上京して監督者にくれ〳〵も賴む事が大切である。其他兩親の一寸氣の付かぬ事で、割合に有効な監督の方法は、其の學校の敎師の一人に監督を賴むことである。敎師であるから、其の學生が毎日學校に出席して居るか否か、成績がよいかどうかをも、時々調らべる事が出來る。誘惑にかゝる者は、小人閑居して不善を爲すの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

類で、學校も多く怠り勝ちであるから、直ぐ分る。殊に其の教師を保證人にでも頼んで置けば、時々判を取りに來たりしては面談する機會が多くなるから、間接に監督が出來る譯である。

△金持ちの子弟なら

も一つ普通氣がつかぬ事があるが、墮落する學生は、多くは金持ちの子弟であつて月に五十圓乃至七八十圓も仕送りを受けて居る者がある。然しそれ程の金をかける位なら、監督を頼み度いと思ふ教師の家などに談合して、家賃の二十圓位は負擔するからと云へば、廣い家に引越して貰へない事もない。教育者が金の爲めにと云ふかも知れぬが、自腹を切るやうでは、家の經濟が成り立たないから、監督も斷らなければならぬやうになる。然るに親は一文惜しみの百損で、初めから二三十圓の金を出し惜しみする爲めに、大事な息子の前途を誤らすやうになるのである。また都合よく教師の隣家に空屋でもあれば、二三人共同して借りさせ、食事位を教師の家で一緒にするといふ方法もよいと思ふ。これは幾分か經濟的にも行けやうと思ふ。とにかく無暗に男學生を東京に追放せば可いと思ふ從來の考へは改め度いものである。

青年の修養

廣岡淺子

△社會の罪多し

「男子志を立てゝ郷關を出づ、學若し爲らずんば死すとも歸らじ」といふ氣慨が今の青年に無くなつたとは云ふものゝ、誰れも馬鹿になりたいと思つて遊學する者はありません。何れも相應の大望を抱いて兩親の膝下を離るゝのでありませうに、可惜有爲の青年を墮落さすといふのは、青年自身の責めよりも、今の社會の負ふべき罪が多くはあるまいかと思はれます。

△人格乏し

今日は親や先輩、しかも人の師表たるべき教師迄も「來りて見よ」といふ人格の人が尠い。酒を飲むな煙草を吸ふなと教壇からは叫ぶが、其の叫ぶ人自身が酒色に溺れて平氣で居る。かゝる風潮は青年諸子の爲めに誠に氣の毒ではあるが、志ある青年が團結して、却つて紳士の模範を作つて貰ひ度いと思ひます。それには根本的に修養の方法もありますが、今の社會では輕々にこれを口にすれば却つて空理空想と蔑む嫌ひがありますから、寧ろ他の方法を申したいと思ひます。

△監督を托する人

遊學させるに當つては、親は事情の許す限り、共に其の土地に行き、出來得る丈け知人を尋ねて、學識よりも人格のある人、即ち品性の正しい高尙な人を監督者にお願ひして、これに托する事が一番肝要な事であると思ひます。

△青年自身には

青年自身に就て注意する事は、この時期は所謂青春の危機に臨んで居つて、稍もすれば心身を誤り易い時でありますから、これを防ぐ爲めに、勉強の傍ら劇しい運動か勞働をさせて、夜に入つたら疲れ切つて睡眠するやうにさせ度いもので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す。而して一方には「未だ得ざるものを望むこれ希望なり」と云ふ言葉の如く、先きに先きにと希望を逐うて止まざるものとならしむるやうに、修養させたい、それには西郷隆盛が云つたやうに「人を相手にせず、天を相手にする」事が大切であります。また高い人格の人に接して、これを教への親として感化を受けて行くことも、極めて大切の事と思はれます。かやうな境遇の下に青年を置けば、墮落する處か、毎日喜び樂しんで、勉學を續けて行くことが出來ませう。とにかく從來のやうに何の計畫も無く、愛子を遊學せしむるやうな親の無謀は、返す〴〵も謹み度いことであります。

獨立自存の精神

慶應義塾長　鎌田榮吉

△理想を云へば

理想を云へば、學生自身に獨立自存の精神があつて、父兄や學校等の監督なぞを要せぬ事を望むのである。中學でも終へて專門の學問をする青年が、監督者の有無に依つて、惰けたり、放蕩したりして、一身を誤ると云ふが如きは甚だ憐むべきものである。其者の理性に依つて、正しい道を見別け、種々の事物境遇に出會しても、墮落の淵に陷いる事なく、進んでゆく丈の堅固な精神を持つてゐてほしいものである。

△暫時の保護監督

けれども、まだ當人の心も固まらず、都へ初めて出るのであるから、若し失敗つては困ると云ふ懸念から、父兄たるものが相等の監督をせねばならぬと思ふのは、さもあるべき事である。さう云ふ心配のあるものは、子弟をして學校の寄宿舍へ入らしめるか、近來諸所に見當る同縣同藩人の先輩が後進者の面倒を見てゐる寮舍風の所、或は教師の私宅に寄宿せしめ、暫時の間保護監督の下に置く事も宜しいであらう。

△他律は不可

素より其保護と云ひ監督と申しても、保護を要せず監督を要せざる獨立自存の境界に至る――それに導くの過程であつて、保護監督に終つてはならないのである。だから、當分は前々に申した樣な所に入れても、だん〴〵と學生自身が自ら其身を處してゆく樣にさせねばならぬ。他律は不可である。自律自制せしめなければならない。保護監督の下にばかり育つてゐては、社會に出で丶何の役にもたゝないのである。

△本科生は全く自由

我慶應義塾なぞでも、自由にして間違ひのない樣に監督はしてゐるが、本科生に至つては獨立の紳士として取扱つてゐるから全く自由である。但し豫科の間は生徒として見、出席の度數や試驗の成績なぞを父兄に報知してゐる。苟くも一の專門學を修めんとする學生が、保護監督の有無に依つて怠たる樣では仕方がない、故に父兄も學校も、學生が自重自制以て獨立自存の自覺を得るまで、適當な保護教導をするはよい。それ以上は自由にしなければならぬと私は思ふ。如何なる場合に於ても、獨立自存の精神は、私の主義であり主張である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

刺戟に馴らす爲

郁文館中學校長　棚橋一郎

△誘惑に陷り易い原因

明治三十四五年頃までの學生と其以後の學生とは、非常に異つて來た。それ以前の學生は言語動作こそ粗暴であつたが、一寸やそつとの誘惑で墮落するものは先づ無かつた。然るに世間一般に此粗暴を嫌惡する樣になつてから、其弊は矯められると共に、反動的に虛飾する風が起つて來た。而かも人間のいたづら心は何かせねばゐられぬものである。粗暴を矯められた學生は勢ひ柔弱に流れて來る、一方、女學校の數も增して男學生と女學生と相會ふ機會が多くなつたから、時恰も靑春の危機にある彼等が、曲つた道に陷り易くなつて來たのである。されば學校などでも訓話と監督とを怠たらぬのであるが、表面を飾る時代の風潮に染つたものは、なほ墮落の淵へ陷つて行くのである。昔の學生の如く自發的に學ぶのでなく、お役で學ぶものゝ多い事も、墮落學生の多い一因であらう。

△金魚と同樣に

故に少年靑年の學生をば、出來る丈け安全な境遇の中に置く必要がある。地方から子弟を遊學せしめる者の如きは、親戚或は知友の健全な家庭に預け得られぬならば、成るべく遊學せしめぬ方がよいと思ふ。また何れ一度は東京へ出す學生であるならば、中學一年生の時分から出した方が安全である。それは丁度、生れた許りから暖い水に飼はれた金魚は暖い水に平氣で棲んでゐられるが、冷たい水に飼はれてゐた金魚が暖い水に移されると、直ぐ弱つて終ふと同樣に、未だ無邪氣な少年時代から、刺戟の多い東京へ出て其空氣に馴れると、自然其境遇に順應した、誘惑に對する抵抗力が出來てくる。東京に生れ、東京に育つたもので墮落するものは比較的に尠く、却つて田舍の中學を卒へてから來た學生、或は中途で出て來たものに墮落生が多いと云ふ事實は之を證明するものである。之れ等も地方の父兄が注意すべき點であらうと思ふ。之れを要するに學生自身が確固たる精神を有するならば、今も昔も變りなく立派に誘惑に打勝つてゆけるのであるが尙ほ父兄たり敎育者たるものは居善の注意を拂つて、彼等を墮落の路に踏み入らしめぬ樣務めねばならぬのである。

靜かに歌へる

安中花子

尼寺に聖者かしこむ尼僧とも身を思ふ夜は寂しかりける。

運命なれば我がはた年に始めての此の喜びも捨てて恨まじ。

何事も唯つゝましうもだせるを上なき性と敎へられてし。

有らざりし昔と思ひものみなをあきらめといふ墓にはふりぬ。

はかなさは灰に字をかき夜を更かす事などいつかならはしとなり。

七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

名士と其の母（四）

救世軍大佐　山室軍平氏

□

私は、海から二十里も離れてゐる備中の山の奥の、貧しい水呑百姓の八番目の末子として、母とも子が四十二歳の時に生れ、満九歳の時十數里を隔つた叔父の家へ養子にやられたまで、母の膝下に育てられました。母は百姓の妻で、假名文字位は綺麗に書いた様ですが、教育があつたでもなく、家から五里と外へ出た事もなく、一生を終つた人ですが、父は一度江戸見物に來た事があると云ふ事でした。家は非常に貧乏で、親二人と八人の兄弟が、一斗の米で三月を暮した事もあつたと聞いて居ります。

□

此樣な貧乏なうちに、而かも四十を越して私を生んだのですから、母は私を養育する上に大變心配し、何うか無事に成人して、餘り惡い事もしないで、何か善い事をして呉れゝばよいと考へたが、何も他によい事はなかつたと見えて、何樣だか知りませんが、拜み出したんです。それから只拜んでばかり居ても駄目だと云ふので、玉子絶ちと云ふのをやりました。山の中だから魚はない、牛肉牛乳などを飲食するものは絶無の頃だから、玉子が一番の滋養物でした。母は私の爲めに一生この玉子を絶つてくれたんです。

□

私は叔父の家に行つてから、十五の年に勉學したいと願つたが許されなかつたので、叔父の家を逃げ出して、東京にまゐり、築地活版所の小僧になりました。十六歳の暮クリスチャンとなり、十八歳には新島先生を慕うて京都へ行き、門番や食事の給仕などをしながら苦學をしたのです。それで郷里に近くなつたから、夏休などには路用を蓄へては、父母の下に歸りますと、當時六十過ぎた母は、年々の貧苦に顔はやつれ、髪も白くなり、腰も曲つてゐたけれど、唯一の滋養分たる玉子をば絶對に食はず、常に私の身を心配して拜んでゐてくれたのです。

□

玉子でも魚でも食へる丈喰つて丈夫になつて下さいと云へば、理窟はさうかも知れないが、夫れでは私の眞心が通らぬと云つて、今から十五年前父が死ぬと直ぐ後から七十二歳で亡くなるまで、玉子絶ちを徹したのです。私が京都へ歸ると云ふ時、日頃紙屑などを賣つて蓄めた二錢銅貨十枚位を出して下れた事なども忘れ難い思出の一つです。これ等の事は年をとる程、馬鹿に有りがたくなつて、時々思ひ出しては心を勵まされる、自分が今日役にたゝぬ乍ら、兎も角も眞面目にやつてゐると思ふのも、母の恩であると感謝して居ます。天國で母に會ふ時、母が玉子絶ちをして拜んでくれた甲斐があつたと喜んでくれる樣に一生懸命でやりたいと思つてゐる。そして恁麼有りがたい母を下さつた神樣は尚ほ有りがたいお方だと、實際眞面目に神樣を有りがたく思つてゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

池田蕉園女史の美擧

門下の娘の家を救はんとして夫妻畫筆を揮ふ

□自分の事以外に、他を省るもの、少ない世智辛い世の中に、近頃珍らしい美談を耳に致しました。それは毎年の文展に東都の花形として、又閨秀畫家の大斗として、名聲高き池田蕉園女史がその門家生なる、一女の一家の窮命を救ふ爲めに、夫君輝方氏と共に、晝夜艶麗なる畫筆を揮つて居らるゝとの事であります。

□謙讓な女史は、是れに就ては、口を噤んで一切を語られませんから、細かい事情は知る由もありませんが、聞知せる處によれば、其の門下生と云はるゝ一女は、淺草で華美な稼業を營んで居るさる者の娘ぬい子(十九)と呼ばるゝ人です。處にも似ぬ眞面目な娘は、何時か繪畫に趣味を覺えて、その研究の爲め何れかの門に入りたいと是非にと父に縋りました。

□性來多趣味な父親は、娘の願を良とし、數年前當時名聲の聞え高かりし、某畫伯の門下に入れたのでした。而して外見を繕ふ娘盛りを、唯一本の畫筆にやつして、朝な夕なを送つたのでした。運筆の自由が得られ、多少寫生もまとまる樣になれば、何卒して意味ある畫、――遺憾なき氣分を表はした畫を、描き度いと思ふのは誰しも持つ心です。然し其の氣分は自分に最も近く最もよく知つて居るものでなければ、容易に表はるべきものでない。それには、自分が一番よく理解して居る女性を表はすがいゝと云ふ處に考へを及ぼすのは、女流畫家の常ですが、ぬい子さんも此處に至つて、遂に池田女史の門に入る樣になつたのです。

□入門後二三年、何事もなく、勉學を續けました。然るに去月はしなくも、ぬい子さんは惡戯な不良少年の爲めに、心にも無い濡れ衣を着せられて、兩親から非常な誡を受けたと云ふことを聞いた蕉園女史は、氣毒さのあまり、其の父に面會して、ぬい子さんの身の潔白を、證據立てゝやりました。その時に父親は種々の家庭の事情から、一家の窮迫せる狀態を語りました。それは、ぬい子の先師が曾つて代議士として立たんとした時、是非入選させて上げたいとの一心から家財を擧げて東西に奔走しましたが、その甲斐も無く遂に落選の悲運に會ひました。

□ぬい子さんの家はそれが爲今は破産の止むなきに陷りました。殊に家は繼母の事とて、家庭の風波絶え間なき由を聞き、情厚き女史は、衷心より同情を寄せ、いかにもして自分等の力をもて此の一家を救ひ得たならばと考へられた末、遂にぬい子さんは自家に引取り、負債二千餘圓を償却の料にもと、池田氏夫妻は紙も繪具も全部を自ら負擔して、數百枚の半切畫を揮毫する事となつたのださうです。

腐敗せる藝術家の多い今の世に、一門下生の爲めに、これ丈の同情を盡さんとする、池田氏夫妻こそ、眞に藝術家の鑑とすべきであります。

九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英國への一人旅（三）

白菊女

□荷物は影さへ見えず

私は更に船首へたどり行きました。どうして〳〵其處へは寄りつく事も出來ない騒ぎ、人夫が一ぱい、右往左往、大仕懸な器械運轉の音轟々さ、魂も轉倒するやう、私はすご〳〵と引きかへして、荷を置いてあつたデッキに立ち歸りました。之れは如何な事…荷物は影さへ止めず、傍には誰も見えませぬ。餘りの事に驚くと云ふよりは、あきれはて、途方にくれ立ちすくんでしまひました。

□忠義顔にボーイの注進

稍々あつて「其處にゐらつしやるのですか…私はぐろ〳〵方々御さがし申しました」さ息せき切つて駈付たボーイ「お荷物はね、たつた今しがた、さつきの運送屋が來て持つて行きました」私はホツト胸なで下ろしました。「あなたを探しましたけど一寸判らなかつたもんですから、私が立ち合ひになりましてくれ」さ忠義顔。

「でも届け先きが分らぬさ云ふからよく調べてくれさ云つたのですが、其事は何さか云はなかつたのですか」「云ふ事はペラ〳〵さほんさの英語で何だか云つてましたつけ、でも、荷は持つて行く、立ち合つてくれ、大急ぎで汽車に積むを聞くのが大仕事、之れさへ分れば、あさは入らない御世辭さ察してイエース〳〵さ聞き流し、しまひにグード、アフターヌウンさ失敬してしまつたんです」

□一夜の宿泊を嘆願

「何て困つた事をしてくれたでせう」さ恨むも遅し、然し多年日本船に出入して居る運送屋故大丈夫信用は出來ますなんぞと問答してる處へ來られたは支店から歸りがけのさつきの一船員、折りも折り何某樣は、此間役が變り、日本詰めとなり、パリ御見物の上、成るたけ早く御歸國なさらうとする塲合、『御紹介あつた事は有たけれど…』さ仰しやつてゐる樣な次第と、私は魂消る許り失望して、暫しは言ふべき言葉も出ませんでした。稍あつて心をまとめ氣をしづめ、此上はお願ひしてある一人の迎への方の來らるゝのを、待つより外には策も無く、今宵は此まゝ船にと決心して、一夜の宿泊を嘆願しました。

□四方八方憂き事計り

あゝ船は日本の船、船員は船長の外悉く日本人、頼り無い一人旅の日本の女、よつて保護して下さつてちやんと行く先きまで着けて下さるだらう、着いたら、船の會社の御役人樣に迎へられて、長い船路の疲をいやす事が出來るだらうかれこれしてる中には、英國通の何某學生殿に連れられて目ざす學校へ難なく行き得るであらう、學校へ行つたらえらい校長樣に引き取られて遺憾なく研究する事が出來るであらう。何の心配は入らぬ事と、人にも云はれて出て來たら、此始末、思へば迂闊であつた。

今更悔いて返らぬ事ながら、せめて返りの手紙見るまでは、待つて居たらよかつたものを、あゝ、急がばまはれ瀬田の唐橋、渡りに船を失つて、しかも闇夜に怒濤の淵をのぞんで立つ心地、ほんとに此分では明日迎へに來て下さる筈の方もどんな事やら、若し來られなかつたら、どうしたものか其上荷物は何處かへ持つて行かれて着のみ着のまゝ、目ざして來た學校ははつきりせず、四方八方憂き事計り、あゝ、こんな憂き目にあふと知つたら、來るのでは無かつたと、勝手な愚痴を思つても見ました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寢ると熱く起ると寒い

薄田斬雲

△春眠不覺曉？

此頃のやうな馬鹿天氣では、未だなか／＼、春宵一刻價千金など云ふ氣分にはなれませんが、夫れにしても彼岸の陽氣ですから、春眠不覺曉位の寢心地はします。鶯も庭先きの繁みで啼きます。一年中一番氣持能く眠られるべき時候になつたのです。だが私は此頃甚だ寢心地が惡いので困つて居ます。それも精神上の心配から來る不眠症の意味ではなく、生理的に不快なのです。兎角は健康優れぬ爲だらうと思ひますが、一眠りぐつすり眠るといやに身體が溫つて胸苦しくていけません。

△空腹になると胃熱が出る

人に依つては、寢て居ると寒いが起きると溫たかくなるとも言ひますが、私は反對に寢て居て熱いが起きると寒くて堪りません。で、夜床に就く際には能く肩を包んで寒くない樣に用心して寢るのですが、眞夜中頃一度は大抵目が覺めます。其時手足がから／＼に乾いて、ほてつて胸苦しく、殊に胃の水落の處が動悸が拍つていやな氣持なのです。併し全身に發熱して居るでもなく、或醫者は「夫れは一時の皮熱だ」とか言ひましたが、私には皮熱と云ふ事の原理がわかりません。但だそう言はれて見ると、いかにも身熱でなく皮熱らしいのです。丁度、脂手の人が脂が出ないと苦しいのと同じ氣持です。時としては些と熱過ぎると思ふと蒲團を剝いで見ると、五分もして寒くなる、又蒲團をかける、又熱い、又剝ぐと云ふ具合に一夜に五六度もやつた事さへあります。餘り厚着の爲だらうとの疑もありませうが、どうして家內中の者に比べて少しも厚着ではないのです。そして寢付く時寒い位いのが、眞夜中になつて熱くて困る。つまり、覺めて活動して居る時と、眠つて休息する時との間に於て私の身體に特異な變化が起るので、私の身體は眠つた休息の時に、血行が遲緩になり、新陳代謝が惡くなつて、おざんだ水の樣に一種病的なものになるのだらうと思はれます。モ一ツは私の身体は夜中空腹になると胃熱が出るのだらうと思ひます。

△敷布團は薄くする

私は嘗て鄕里に居る時、藁蒲團を造り其上へ綿ハ入つた蒲團を敷いて寢て見たら、其夜中乾蒸しに遭つた樣な苦みで閉口しました。翌晩は藁蒲團の上へ毛布を二つに疊んだ位の薄い蒲團を敷いて見ましたが、それでも猶ほ熱苦しい、其翌晩は藁蒲團へ直かに寢ましたがそれでも熱い、遂う藁蒲團は止めました。敷蒲團は薄く固い方が好いと云ふ說は、私には適して居ます。敷き蒲團は成るべく薄くして掛け蒲團で寒さを凌ぐ事は私には具合が好いのです。

△裏毛のメリヤスは禁物

私はシャツは着て寢るが、股引はどうしても穿いて寢られません、いやに熱苦しくていけないのです。そしてシャツも日中起きて居る時は裏毛の厚いのでも我

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慢がなるが、眠る間は裏毛だと毛穴が塞がれて發汗作用を杜絶される樣な苦みを感ずるのです。裏毛なしの目の粗いごそ〳〵した者を肌着にしたいのです。其意味から此頃は薄い夏シャツを二枚着て居ます。ヅボンも裏毛のメリヤスを廢して晒しの白木綿物にしたら甚だ快適です。夏の綱シャツ式の太い木綿糸のシャツを欲しいと思つて店を探すが、そんな重寶なものは賣つて居ません。

—— * ——

田舍の臺所から

主婦の手帳

くれは

□重い澤庵の押石を輕くするには

澤庵の押石は重い程、風味がよろしうございます。併し重い押石は一人の力で持上げるには容易でありません。そうかと云つて餘分に出して置くのも風味を害します。矢張入用なだけ、その都度都度に出すのがようございます。重い押石を輕く持上げるのには、澤庵の樽の眞上に天井があれば、天井に丈夫な丸い木を渡して一條の太繩をその木を越して左右に下げ、一端を押石に結びつけ、一端を下げておきます、澤庵を出すとき、上から下がつて居る方の繩を引きますと、押石は、左迄の力を要せずに持上げる事が出來ます。もし樽の上に天井のない時には、はねつるべの樣にして繩を押石に結びつけます。

□口のせまい瓶の中のものを出すには

らつきやうなどを燒酎の瓶等につけた時、瓶の口がせまいので、汁を出さずにらつきやうばかりをすくひ出すのには可なり困難です。そういふ場合には、らつきやうが二つ三つはいる程の太さの竹を節の處から一寸位上を三四分殘して輪切にして、きり殘した處は長く柄にけづります。そうしますと、丁度油をすくひ出す柄杓の樣なものが出來ます。その節の下に汁がしたゝるやうに五つ六つ程錐で穴をあけて用ゐます。瓶の口から、眞直に瓶の中に下してあげますと、柄杓の中に二つ三つのらつきやうが器用に掬はれます。

〰〰〰〰〰

十二

八百屋物の卸値と小賣

左は神田青物市場の市場値段と市内の小賣値段の比較表で、同市場の松島商店が過る三月廿一日調査したものです。

青物果實	市場値段	小賣値段
大根一本	自二錢至五錢	自三錢至五錢
馬鈴薯一貫目	自九錢至十五錢	自十二錢至二十錢
甘藷一貫目	十二錢	十六錢
里芋一升	六錢	八錢
人參一本	自一錢五厘至二錢	自二錢至三錢
牛蒡十本一把	自二十錢至三十錢	自二十錢至四十錢
葱一貫目	卅錢	三十五錢
玉葱一貫目	卅五錢	四十錢
甘藍一貫目	卅錢	四十錢
白菜一貫目	三十錢	四十錢
小松菜一把	自二錢至三錢	自三錢至四錢
ホーレン草一把	自二錢至五錢	自三錢至六錢
龜戶大根一把	三錢五厘	自四錢至五錢
根三ッ葉一把	三錢五厘	五錢
筍一貫目	一圓	一圓五十錢
生椎茸百匁	十五錢	二十二錢
辛子菜一把	三錢	三錢五厘
蕗一把	十三錢	二十錢
胡瓜一本	自二錢至七錢	自三錢至十二錢
茄一個	十五錢	二十錢
トマート百匁	二十五錢	卅五錢
苹果一個	自一錢五厘至四錢	自二錢至七錢
バナヽ百匁	十錢	自十錢至十二錢
蜜柑一函	四十錢	一個二錢至三錢
ネーブル一個	自三錢至五錢	自五錢至七錢

附記　松島商店では右の如き卸値段にて淸新なる青物を多少にかゝはらず前日電話にて註文すれば無代にて配達するさうです。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

白髪にならぬ法

髪の毛の手入れ（一）

理容舗主　遠藤はつ子

口一體日本人は、非常に髪の毛を粗末になさいます。ですから髪を洗ふ時でも、梳く時でも、眞當に抜ける毛よりも、切れる毛の方が多いのです。

口髪洗ひは夏は月に三回、冬は二回位を程度と致しますが、先づ髪を洗ひます時には、一度全然り櫛で梳いて、それから髪洗ひ粉なり何なりで、手先を五寸ばかり洗ひます。それも無暗に揉だりせずに並毛に靜かに洗ひ粉を附け乍ら洗つて行くのです。而して汚れが取れましたらば毛の根からやはり何處迄も毛並に決して逆手を使つたり、毛の半迄毛並に下げて行つた手を元に戻したりしないやうに注意して洗ひますと、少しも滯らなく、從つて切れもしないで綺麗に洗へます。

口からうして洗ひ上げましたらば、乾いた西洋手拭で先づよく頭の地を拭ふと頭が臭くなるやうな事はありません。髪を濯ぐ最後の時油を少し落して濯ぎますと、毛が深沈として良い事は御承知でせうが私の長年間の經驗によりますと、椿の絞り粕と布海苔を混せて洗ふのが最も宜敷う御座います。曾て伊豆邊りでは、斯して居ると云ふ事を聞きましたから、早速取り寄せて實驗致しました處、毛がしつとりとするばかりで無く、暫らく續けてこれを用ひて居りますと、黑く且つ長くなります。私はもう五十五歳になりますが、御覧の通り白毛一本無く、皆様が染て居るのでは無いか、とお仰る位ゐですと、云はれて見上げた其の人の髪は、年には珍らしく眞黑に美しく見受けられました。

今週の惣菜

櫻井ちか子

△田螺の木の芽和へ　田螺を醤油と砂糖とで薄く味をつけ、別に木の芽と味噌を擂つて、これを少し弛め、前の田螺を入れて交ぜます。

△蒸し鰈　鰈の切身に薄く鹽を振りかけ、蒸籠又は御飯蒸に竹の皮を引いて蒸します。別に普通の炒り玉子を作り細かくして一寸酢を加へ、鰈の上に掛けて出します。

△はんぺんの薄葛　はんぺんを大き目に切り普通のすまし汁の中へ、水で溶いた葛又は片栗粉を掻き交ぜながら入れ、はんぺんを入れて一寸煮立てゝ下します。椀に盛つて其の上に擂り生姜をのせて出します葛、片栗は四人前に小盃に輕く一杯の割でよろしい

△刻み昆布と油揚の甘煮　刻み昆布をよく洗つて適宜に切り、油揚も細かに刻み、昆布と一所に醤油と砂糖で煮るのです、昆布が軟くなる迄度々水を注します。

△炒り豆腐　豆腐を細かく揉み砕いて布巾で搾り水炒をして居ると汁が出ます、此汁を度々煮捨てゝ、水氣の取れた頃砂糖、醤油、鰹節を入れて炊りながら煮るのです。味が付いたらば別に煮てある蓮と胡蘿蔔とを交ぜて膳に上せます。此の中に、美味しく味をつけた椎茸を入れると尚味がよくなります。豆腐を大きく炒るには茹でゝから揉みつぶします。

△蓮の油煮　蓮の皮を剝き、ころばし切に切り、胡麻油の煮立つた中に入れて炒りつけます。其の後少量の醤油と砂糖とで味をつけるのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界史お伽噺

ビオニヤの娘

斬雲

昔し、波斯のダリヤス王様が、今の土耳古の國―其頃は小亞細亞と呼んで居た土地のサルヂスと云ふ都に居ました時分、一日大勢のお供を連れて町を御通りになりますと、見馴れぬ外國の衣裳を着た十八九の美しい娘が、王様の行列の前を横ぎつて通ります。大變美しい品の好い娘ですが、大島の女や朝鮮の女の様に頭に水瓶を戴せ、兩手で麻糸を紡ぎながら馬を曳いて行くのです。

衣裳が外國風であるのに加へて、こんな、仕事の三つも持つて行くのですから太變人目に付きます「何處の娘だらう？」「何んだらう？」「大變な稼ぎ者だぞ？」と皆んなが噂します。ダリヤス王様も之を認めまして『扨て〳〵勤勉な事である、―遂ぞ見馴れぬ異様の服装をして居る。一體何者だらう』と家來共に仰せあり、一人の氣の利いた家來に「手前窃つとあの娘の後をつけて行つて何者であるか見屆けて參れ」と申します。

で、家來は後をつけて參りますと、彼の娘は河畔に行きまして馬に水を飲ませ、又水瓶を下ろして之に河水を一杯入れ、再び之を頭に戴せ、やがて絲を紡ぎながら我家へと歸りました。家來は詳しく此の様子を見屆けて歸り、ダリヤス王様に斯く〳〵と申上げましたから、ダリヤス王様はほと〳〵感嘆遊はし「世にも稀れなる勤勉な娘である。何處の者か訊して見やう程に即刻此處へ召せ」との御意です。

家來は直ぐ娘の家へ參りまして王様の仰せを傳へますと、娘は委細畏り早速ダリヤス王様の前に出ました。其時娘の兄に當る人が二人出て參りまして「此娘は手前共の妹で御座います。手前共はピオニヤと申す國の者で御座います」と申しました。

ダリヤス王様は一度はピオニヤと云ふ國の名を聞いた事もありますので、「扨ては其方共はピオニヤ人であるか、して手前共の國の婦は皆な此の娘の様に勤勉か」と問ひました。

――兄弟は其時低頭平身して、自分の國の婦には、一寸も暇を潰ぶさぬ様に稼ぐので、世界中一番の働き者であると云ふ事を長々と述べ立てました。するとダリヤス王様は「然らば予はピオニヤの人民を悉く捕へ來つて小亞細亞に住まはせやう」と仰せられ、直ちに大勢の兵士を遣はして、其の城を攻落し、人民をば全部擒にして小亞細亞に連れて參りました。處が其の婦共は一向稼ぎません。亭主に働かせて婦共は唯だ終日のらくらと遊んで居ます。

ダリヤス王様は目算がらりと外れ大いに怒つて彼の娘の兄共を嚴しく叱り付け何故嘘を云つたかと訊問致しました。二人の兄弟も今は包み切れず白狀しますには「手前共は實はピオニヤの人民の頭になりたい爲めに企劃んだ事です、手前の妹は美しい顔立だから勤勉な様に見せかけて王様のお目にとまり、お宮使へに取

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り立てられる、手前共は其の緣故で王樣の兵力を借りピオニヤ人を征服がへて其の頭分になる量であつたのです」と申しました。成程計略は巧かつたのですがダリヤス王樣に上を越されて自分達始め其の國の人民は皆んな波斯人の奴隷にされてしまいました。

海の博覽會

人氣の高い乙姫樣の住居

一記者

□麗らかな過る日曜の午後、柔かい土を踏み締めながら、池の端なる海の博覽會へと歩を運びました。崩れ入る人波に揉まれながら、次々と巡覽しますと、所狹き迄陳列された海の代物の數々！港灣、軍艦の模型から潮流を示した掛圖、雲型に依つて天候を識るの說明も、誠に興味あるものと思はれました。

□北海に住む海獸の群の物恐ろしい光景に、「恐いのねえ」とお父さまに摑みつく子供の容子も面白い。こ生後四十日目に小犬位の大きさな海獸は五年の後には五六尺もあらうと思はれる程の大きな膃肭になるのです。此位大きな海獸と白熊とが廣い〳〵白氷の上で互に摑みかゝる時は如何に凄じい事でせう。

□それ八幡船が、海賊船よと、支那朝鮮の沿岸の良民に戰きの懷えられたその船も今の軍艦、汽船を見つけて居る目には反つて不思議に思はれる位ひ小さな不完全な船で、一度惡い潮流に出合つたならば、忽ちにして覆つて終はれさうに見られました。これに反して德川氏の御座船天地丸、細川家の泰平丸、何れ劣らぬ煌かさに、當時の武士の氣質の一端も押しはかられて面白く、船と云へば木の外には聯想を及ぼし得なかつたこの時代に初めてペルリの一行が浦賀に到着したのを見て「煙り吐く船」と驚異の眼を見張つた其の當時を今更らながら無理もないことと思はれるのでした。

□全館の人氣を一身に集めて居る、乙姫樣のお住居―海底館―は此處と指し示さるゝまゝに、眞暗らな穴を暫らく歩み續ければ、何時か穩かな海底が展開されました。榮螺取る海士、右往左往に游ぶ魚の群を見上るばかり高い處。やがて海底は追々に深く、水面を去る數十尋の海底には、美しい珊瑚、ふはりさした海綿、種々の海草貝類、たこ、いかの恐ろしげに游ぐ顔付に、一笑しながら行き行けば、益々深き海の底には、いそぎんちやく、小判頂き、或は怖しき強器を供へた幾多の魚類に物おぢしてか、小魚の頭も少く、たゞ音もなく白い砂と靜かな水とが流れて居るばかりです。

□長い海底の旅行を終れば樺太の氷上生活、椰子の實のなる南洋の狀態、或は難船救助の光景、點々として移る數多の物に興を盡して館外に出づれば、海軍飛行機の實物說明、「それ、これが大砲の速度を示したもの、十四インチ砲は五十五秒で東京驛から東神奈川迄行くのです」と鬪說を更に解いて居る子供連れの婦人も見えました。出口に軒を列ねて居る賣店の中、海の料理と云ふのも所から一寸面白く目に映りました。

子供の智慧

□どれが一番曲つて居るか

三保子さん（七つ）の讀んで居る雜誌に學校の庭で子供達が大勢並んで、そのうちの一人が首が曲つて居ると先生に云はれて居る畫がありました。するとその畫に向つて、其の畫かれた子供の中のどれが一番首が曲つて居るかをくらべる樣に一人一人を見ては、自分の首を一々その畫の子供の程度にかしげて見ました。

――（投書を歡迎します）――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

全譯 何處へゆく（十四）

松本雲舟

別離の二

ブラウチウスは剛毅な勇者、勇敢な人なので、悲嘆や無用な繰言や愁訴を以てかゝる命令に答へることは斷じてしなかつた。けれどもその額には、突然の怒と悲しみの皺がよつた。久しき以前英國の軍勢はかやうに寄せられたアウルスの眉毛を見て震へたことがある。それ故ハスタの面には恐怖が浮んだ。だが今や皇帝の命令の前に、ブラウチウスは赤手空拳を感じた。で、暫らく御札と御印を見てゐたが、老ひたる百人の長の方へ眼を向けて、靜かに言つた。「ハスタ殿、人質をお渡しするまで、この室でお待ち下さい」恁う言つて、ブラウチウスはポムポニヤ、グレシナやリジヤや小さなアウルスが驚いて待つてゐる家の隅の室へ行つた。

「誰れも死刑になるのでも、遠島へ流されるのでもないが」とブラウチウスは言つた。「だが、皇帝の使者は不幸な使ひだ。リジヤ、それはお前のことぢや」

「リジヤのこと？」とポムポニヤは當惑して叫んだ。

「さうぢや」とブラウチウスが答へた。

さうしてリジヤに向つて、「リジヤ、お前は私共の子供としてこの家で育てられた。ポムポニヤも私もわが娘のやうにお前を愛した。だが、お前はお前の國民が羅馬に渡した人質ぢや。お前を保護する役目は皇帝にあるので、今皇帝はお前を私の家から連れて行かうといふのぢや」

ブラウチウスは靜かに恁う言つたが、その聲は緊張して變つてゐた。リジヤはそれを聽いて、どういふ事か解らずに、吃驚して眼を開いたり閉ぢたりした。ポムポニヤの頰は蒼くなつた。廊下から客間へ通ずる戸の側には、女の奴隷のびく〳〵してゐる顏が見えた。

「皇帝の御心は充されねばならない」と

十六

ブラウチウスが言つた。

「まあ、あなた」とポムポニヤは叫んでリジヤを保護するやうにその身體に腕を投げかけて、「それよりも此娘に死ねといつた方がようございます」

リジヤはポムポニヤの胸によりかゝて「母さん、母さん」と繰返へしたが、苦痛に語が出ぬのであつた。

ブラウチウスの顏はまた怒りと悲しみに皺が寄つた。

「私が獨身なら」と凄い聲で、「やみ〳〵此娘を渡しはせぬのぢや。さうすれば私の家族は今日にも死の神さまに献物をせねばなるまい。だが、私はこれから幸福な日を迎へやうとするお前や息子の身を滅ぼすやうなとは出來ぬ。で今日直ぐ皇帝に御願ひして、御心を變へていたゞくやうにしやう。聽かれるか、どうか、それは受け合はれぬ。兎に角リジヤ、今日は行くのだ。ポムポニヤも私も常にお前が始めて、私の家の爐邊に坐つた日を祝福することを覺えてゐてくれ」

ブラウチウスはリジヤの頭に手を按いた。努めて平靜を裝つたが、リジヤが涙の眼をあげて、その手を握つて幾度とな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く接吻し始めたので、ブラウチウスの聲は父親の深い悲しみに震へた。

「御機嫌よう、我等の歡喜、我等の眼の光よ」とブラウチウスは叫んだ。

　さうして急いで向き直つて、室を去つた。羅馬人で大將たる者は女々しい感情に耽るべきものではない。

　やがてポムポニャはリジャを寢室へ連れて行つて、慰め又勵したのであるが、その言葉は次の室には家の護り神の殿堂があり、又昔の習慣に忠實なプラウチウスが家の神々に供物をしておく祭壇のあるこの家には異樣に響くのであつた。

「試錬の時が來たのですよ。ヴイルギニウスは娘を刺殺してアピウスから救ひました。ルクレチャは恥しめを受けぬために生命を棄てました。皇帝の家は腐敗と惡風と罪の巣窟です。でも、リジャや、私共は自殺を行つてはならぬのですよ。私共はもつと高尚な、もつと神聖な、法律に從ふのですからね。この法律によると私共は死と呵責を堪へさへすれば、罪と汚辱から身を防ぐことは出來るのです。穢れた家から清い身體をして出て來る人は一層名譽ですからね。この世はかやうな巣窟ですが、幸ひに私共の生命は短いですからね。ほんとうの生活は死から復活してから始まるのです。それはネロの支配せぬ所、愛の支配する所です。苦痛は歡樂に變り、涙は喜悦に變るところです。

　ポムポニャは恁う言つて、それから獨語を始めた。全たく氣が靜まつたが、心には痛々しい傷があつた。

　ポムポニャの夫の道徳意義は徹底してゐなかつた。その靈魂は永遠の光を一筋でも受けてゐなかつた。ポムポニャはまだ息子をも眞理の靈に導くことが出來なかつた。かういふ狀態がこの世を終るまで續くとしたら、そして別れの時が來たとすれば、今悲しんでゐる一時の別離よりも百倍も怖ろしいに相違ない。天國へ行つても夫や息子と一緒でなければ幸福であらうとは想へなかつた。で、今までも赦免と慈悲を求めて、涙と祈りに睡らずに夜を徹するとも度々であつた。その苦しみを神に訴へ、待ち且つ望んだ。今この新らしい打擊を蒙り、暴君の命令で夫が眼の光と叫んだ愛する娘を取られる時でも、ポムポニャはネロ以上の力、ネロの怒以上の愛があることを信じて、尙望むのであつた。

　ポムポニャは娘の頭を尙密接に自分の胸へ押し着けた。リジャはその膝に沈んで、ポムポニャの衣物の裾で顏を隱して餘程長く默つてゐた。遂に頭をあげた時には可成りに氣が落着いてゐた。

「お母さまや、お父さまや、弟とお別れするのは、どれほど苦しいか知れませんが、抵抗したとて助かるわけではありませんし、唯私共の身を滅ばすだけでございます。私は皇帝の御殿へ參りましても、決してお母さまの御言葉を忘れはいたしません。」

◉眞品廉價で評判な神田小川町の龜屋履物店は、お花見の仕度にふさはしい各種の履物を澤山取揃へ、益々薄利を以て顧客を待つさうです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時事

◉皇后陛下學習院行啓　皇后陛下には廿七日午前學行されたる學習院女學部卒業式に行啓相成りたり。

◉明治神宮釿始式　廿五日午前九時代々木御料地なる明治神宮建設敷地に於て釿始式を擧行せられたり。

●袁氏帝制を取消す　廿二日袁世凱氏は帝制承認を取消し、且帝制贊成者反對者共に國家を憂ふるの情に出づとし、同心協力以て民國を救ふべしと長文の申令を發し罪を天下に謝せり。

◉獨逸媾和を希望す　駐獨米國大使ゼラード氏は賜暇歸國の準備中なりンが本月十七日に至り、獨逸首相ベトマンホルウエッヒ氏は突然大使を外務省に招き、非公式に獨逸に媾和の意あるを語り、且つ近々米國に媾和幹旋の時期到來すべきを以て、今日の塲合歸米を見合せん事を希望したるにつき、米大使は其意を諒とし賜暇歸國を無期延期したりと。

◉露國へ讓れる三艦發す　露國へ讓渡の三艦及特務艦隊は二十八日午前呉軍港發浦鹽に向へり。

◉ア氏の北極探檢　南極探檢家として有名なるロールド、アムンドゼン大尉(諾威人、本年四十五才)は百噸許りの船にて北極探檢に出づべしと外電は報せり。

◉ハ博士の歸米　明治七年米國傳道會社から日本に派遣された三宣教師の一人にして日本基督教會の恩人なる現朝鮮駐在メソヂスト教會監督ハリス博士は今回歸米するに付廿四日夜麹町有樂町帝國保險協會にて米大使石井外相其他百餘名發起の下に送別會催されたり。

◉濱職事件の大公判　一昨年の通常議會の懸案たりし二個師團增設問題に關する代議士濱職事件に關する公判は二十二日午前十時より高松地方裁判所に、波多野裁判長係り、井上萩原兩陪席判事、山下高松檢事局檢事正、大阪檢事局の一松檢事立合にて開廷、日向輝武氏を除き林田龜太郎氏以下十七名の被告全部出席、辯護士花井岸兩博士外卅二名出廷、事實の審問を開始し白川增田兩氏の陳述あり午後六時半閉廷せり。二十三日は林田前翰長の聲涙共に下れる告白あり、森川、吉田水間の三被告の訊問ありたり。而して廿四日の第三日には板倉中氏の陳述、太田、關、根岸三氏の申立にて事實調べ終りたり。次回は五月十五日より數日間に亘り檢事の論告及び辯護士の辯論あるべし

◉四年大學案審議　高田文相の所謂四ケ年大學案は昨年十一月十三日教育調査會特別委員會にて修正可決したる以來議會開會其他の故障にて今日迄協議を逐ぐる運びに至らざりしが、二十三日文相官邸に總會を開きて之れを付議、特別委員長菊池男の報告に次いで質問あり散會したり

◉新法學博士十三名　法學博士會は二十五日午後二時文部省修文館に開會穗積會長以下八十餘名出席推薦人は被推薦人三十名に對し其理由を報告せしが議論沸騰して夜に入るも決せず結局左の十三氏と確定せり。

大審院檢事　板倉松太郎
大審院判事　谷野格
東京控訴院判事(部長)　松岡義正
高等海員審判所理事官兼商船學校教授　市村富久
行政裁判所評定官　窪田靜太郎
控訴院檢事　泉二新熊
辯護士　岩田宙造
財政經濟時報主幹　本多精一
慶應義塾大學教授　氣賀勘重
同　神戸寅次郎
同　三浦新七
東京高等商業學校教授同講師　左右田喜一郎
會計檢査院副檢査官　工藤重義

◉婦人問題研究會　過る廿五日第三回例會を麹町區八重洲町なる中央亭に開く。東京地方裁判所長牧野菊之助氏の「親族法上に於ける女子の地位」に就いての講演あり。例により學者名士の出席する者多く、質疑討論湧くが如く起り、九時頃散會。婦人の出席者五六名を數へたり。

◉東京市の戸口數　大正四年十二月三十一日現在の東京市の戸數は五十八萬四千七百〇八戸、人口男子百二十萬四千九百五十五人、女子百三萬九千八百十一人、合計二百二十四萬四千七百九十六人にして、前年末に比すれば戸數に於て四萬三千七百十二戸、人口に於て男女合計十四萬四千四百八十九人の增加なりと。

◉婦人矯風會々館定礎式　赤坂區溜池三番地の同會は、今回赤坂區新町三丁目四十七番地に本部會館設立の計畫成り、二十九日午後二時定礎式を行へり同會は創立後三十年の今日初めて會館設立の運びに至りしものにして、同會會頭矢島老女史は往時を追懐して「男子生れてこれが爲に室あらんことを願ひ、女子生れてこれがために家あらんことを願ふ」とは三十年前本會誕生の際述べた言葉でありましたと語らる。

◉遞信省の新施設　遞信省にては四月十一日より代金引換郵便物の居宅引換及取立金の居宅拂を開始すべし。

◉山川帝大總長夫人逝く　帝國大學總長山川健次郎男夫人鉚子の君は廿三日午後六時五十分逝去せらる。葬儀は廿六日小石川傳通院にて佛式を以て營まれたり。

個人消息

△廣岡淺子　二十六日上京四月早々横濱に於て開催の婦人矯風會大會に臨み、四月十二三日頃迄滯在の筈。

△野口幽香子(學習院幼稚園主任)　春季休暇を利

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

用して、昨年逝去せられたる令弟の家事取片付けの爲播磨の同邸に赴かる。

△ルイズ、ルニヨール孃（佛國大使令孃）來月早々兼て婚約の同大使館附一等譯官海軍大尉ガストン、ブルゴワー氏と華燭の典を擧ぐるべしと。

△園照子刀自（日輝法尼）二十六日七十歳の延命祝賀會池上小學校にかて開催されたり。

△倉知かつ子（鐵吉氏夫人）廿七日逝去享年卅九

△永井郁子（聲樂家）昨秋作曲家山田耕作氏と結婚したるが、同氏が帝劇女優河合磯代子と情交あるを知り、去月六日斷然離婚したりと。

●家庭教師を望む　都下の某小學校に奉職して多年の經驗を積んで居る方が、學校の傍ら、通ひで眞家の家庭教師を望んで居る者があります。（記者）

編輯室より

▲山室軍平氏を銀座の救世軍本營に訪問したのは、廿七日の夕刻でした。其朝から何か重要な會議に列して居られた氏は會議が濟むと直ぐ會つて下さいました。「はあ、母のこと！　毎號面白く拜見して居ます。」と、前號までの各名士の談話を讀んで居られたもの〻如く語られてから、「私の母には有りがたい事があるんです」と、飾り氣のない淡泊した口調で話されたのが本號記載の「名士と其母」です。▲氏が最後に、母の恩と神の愛とを結びつけて「他人には通じないかも知れませんが私にはこれが眞實に感じられるんです」と云はれたあたり、天眞爛熳で誠に充ちた氏の人格が躍如として記者の心境に迫つたのでした。▲本號で紹介した池田蕉園女史門下生の爲めの半切撒會は共、箱付金五圓の會費だそうですから、同好の士に同女史の義俠心に同情され進んで入會されん事を、記者よりもお願ひいたします。

人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有らゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絶對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財產調査、男女學生品行調査、親裁判上の證據調査等の御依賴に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります。但しこれには依賴者が至當と想はれる程の低廉な調査料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい。面會時間は日曜を除くの外午後零時より、午後四時迄です。

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社内（電話番町四五六六番）
人事相談所

婦人週報
（每週金曜發行）

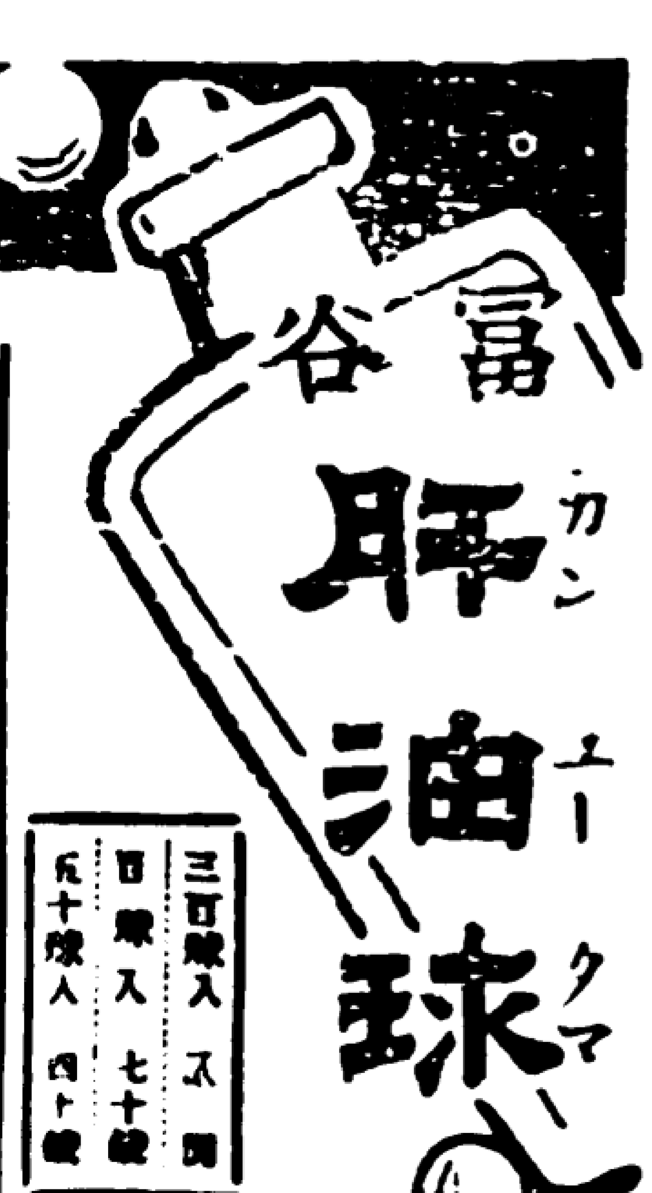
定價表
△壹部金五錢（但し郵送料五厘を含む）
△一ヶ月（四部又は五部）金貳拾錢
△三ヶ月（十三部）金六拾錢
△半年（廿六部）金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢

廣告料	
△特等（表紙の二、四）	金參拾圓
△壹等（表紙の三、白紙前付）	金廿五圓
△貳等（色紙の表側）	金廿貳圓
△參等（色紙の內側）	金貳拾圓

注意
▲御註文は一切前金の事▲郵券代用には必ず一割增の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

發行編輯兼印刷人　小橋三四子
東京市京橋區銀座四丁目一番地
印刷所　東京支店　福音印刷合資會社
東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
發行所　婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番

肝油服用者之福音



最新式の軟質膠球劑絶對に臭氣もなく美味に飲めるは此肝油球である

諸大醫の賞讃
肝油球の特効
身體の弱き人
かぜ引き易き人
腺病の人
夜盲の人
冷え性の婦人
肺の惡しき人
貧血にて艶のなき人
油氣の少ない人

發賣元　東京市赤坂區田町五ノ一
工場　東京赤坂新町三ノ三十二
藥劑師　富谷宗吉藥局
電話新橋三百十九番
振替東京七〇八一番

體力精力増進に今が肝油服用時期

英語生徒募集

高等女學校卒業生に適當の各級あり又年長者にして英語初歩より學ばれんとする者にも懇切に敎授す。家庭的寄宿舍の設けあり。
ピアノ個人敎授の需めに應ず

本郷區彌生町三番地
英語專門私立　櫻井女塾
電話下谷六八一五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕但祭日及日曜之他
院長診察 月、金、木午前及(木)午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京三番町三十番地（市ヶ谷見附內）
電話番町 六二番

東洋內科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

南湖院

電話ちがさき二番
神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日 午後入院診後應需
診察毎朝但祭日及日曜及土曜之他

クリーニング

は一滴の水を用ゐずして如何なる汚れも新調同様になります
殆んど和洋服外套インバネス・セル・ショール・東コート半襟毛皮等のクリーニングと染色を丁寧親切迅速に致します
○局部シミヌキ
○御一報次第參上
各國大公使館
帝國ホテル 御用
日比谷クリーニング商會
日比谷公園停留場際 電話新橋三一〇八

◎產婦人科◎小兒科
宅診午前 往診午後
病室、產室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ
院長 女醫 吉岡彌生
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院
電話番町三三五七

齒科
ドクトル 富田貞一
日本橋區高砂町六
電話浪花五四〇五
（久松町停留場より西一丁）

殺菌と血止めに便利なる
【毒消し筆】
一本金拾錢 送料金貳錢
●毒虫、蚤、蚊にさゝれた所の毒を消しかゆみを去り
●創口の血を止めて其場所を殺菌す
●携帶至便●使用簡便●殆んど永久に用ひられる●是非一本を試みあれ
（注意）參錢郵劵四枚封入御注文あれば即時發送す
發賣元 目白藥局
小石川區高田老松町十七 振替東京三一六九二

吳服物なんでも
△問屋より直接取次故必廉價△市內は御報せ次第持參地方は御年頃と品物とお知らせ頂き御送附致します
東京四谷區愛住町九四 齋藤ふく

產科、婦人科 小兒科
女醫 井出茂代
東京府內藤新宿番衆町卅一番地
電話番町三六七七番

開業大家發見 長岐醫學士 千葉晚香先生 發見
岡村繁先生 製劑

美妙水
大瓶 金廿五錢
中瓶 金拾五錢
各送料 金八錢宛
（海外は別送料）

◉美妙水の著能
凍傷。濕疹・疥癬 其他
▲蚯蚓 ▲蜂 ▲南京蟲等に螫刺
發賣元 龍明堂 千葉せい
橫濱市青木町輕井澤一九五五
（振替東京壹六五四參番）

京都染物
東京市本鄉區湯島新花町八番地
井筒屋支店
中村榮次郎
電話下谷五六七四
（御注文の節は御一報被下候へば早速御伺可申候）

◎生徒募集家族的寄宿の便あり
個人教授 裁縫技藝
●編物●袋物●刺繡●壁細工●造花●摘細工●縫細工●綿細工●儀式用折紙●水引結方
入所時間科目隨意
麴町區富士見町五ノ二
大妻技藝傳習所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

最新刊婦人必讀の二名著

「農村と娯樂」著者 天野藤男新著

（忽ち再版）

田園趣味 花と人生

四季の花卉草木數百種を擧げ來り著者一流の筆致を以て其の花色形容、口碑傳説、詩歌俳諧、情話等を描寫し、延ひて人生と花との關係を闡明したるもの即ち本書にして全篇趣味の結晶ともいふべく、文致結構花の如く美しく、崇高し、物質文明の人を眩惑するの方今時勢に、本書の出現は寔に偶然の事に非ず、單に淸娯の良書たるに止らず、國民性を陶治訓練する絶好の資料として之を天下に推奬するもの也。

四六版三百頁餘

布製 美裝 箱入

定價壹圓貳拾錢

送料八錢

「一日一善」著者 山本瀧之助著

實踐 一日一善講話

本書は先づ「一日一善の發芽」に於いてこれが來歷を示し、次に「一日一善の成長」に於いて五年間に於ける弘布の狀態を明にし「一日一善の根底」に於いて根ざす所の頗る深きものあるを說き、終りに「一日一善の成果」に於いて今日現に既に如是の成績を擧げたるを誇とす、一善に志ある方々の御淸讀を待つ。

裝幀クロース 箱入

定價金七拾錢

送料金八錢

發行所 東京市麴町區平河町五丁目 振替口座東京二〇一九一四番 洛陽堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA